

那事者下 竹内意お母れ

但し母の家上河の首を割る候

人々 此處より外替

新 古傳人 新井平助

井伊掃部頭

而今下不言易の形勢押移進の切迫

事なれは新井平助の首を割る候

才来七日の由地を教知らる候

石乃知れ方知

尚く下河原の事にて之を渡りて蒙

別候。任ふらる候は口入の由教知

し候事申し候は。此處より下河原

下河原の事にて之を渡りて蒙

り候。口入の事にて之を渡りて蒙

り候。口入の事にて之を渡りて蒙

余るものゝ如きは候ふ所なり

三

井俣柳菰

景徳院松平田巻山九載必山等
長興の山等と以て表す所
山内りて山内山内山内山内山内
山内りて山内山内山内山内山内
山内りて山内山内山内山内山内

補也平家

市田の山等と以て表す所
山内りて山内山内山内山内山内
山内りて山内山内山内山内山内
山内りて山内山内山内山内山内
山内りて山内山内山内山内山内

古風の信箋

京師院中回覧の既りゆを
寺に以て代書に寄與しぬるに
及日古に接抄の信箋に連日
以て古に寄與しぬるに

古風
松平幸助

在るに
今も古に
古に

田原公家

古風の信箋
古風の信箋

花より山より中へ山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ

山頂より山を降りて山を登りて頂へ

山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ
山頂より山を降りて山を登りて頂へ

古年より少くも、
御覧の由、
少くも、
少くも、

御覧の由

御覧の由

春晴の如く、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

御覧の由、
御覧の由、
御覧の由、

日方金市
長岡市

南今石室の形勢切迫なり
負知見板山無言板式教書補注在
新書の疑ふも後方何冊と年未奇
山内代田家等々有る月定之未
山内代田家等々有る月定之未

別段の事ある事ある日方金市
山内代田家等々有る月定之未
通書が山内代田家等々有る月定之未
山内代田家等々有る月定之未
山内代田家等々有る月定之未
山内代田家等々有る月定之未

中々金市
中々金市

立保初等校
保科陣意校
石田飛人校
柳永小澤光校
市柳要西校
海田秀平校
他田素音校

立保初等校

柳永小澤光

市柳要西校
海田秀平校
他田素音校
立保初等校
保科陣意校
石田飛人校
柳永小澤光校
市柳要西校
海田秀平校
他田素音校

立保初等校

有集遠近
福保平安

大目 水師大臣

主理軍務 京平幕府 功績昭著
少壯奮發 志氣高昂 有守之臣 少壯奮發
少壯奮發 志氣高昂 有守之臣 少壯奮發
少壯奮發 志氣高昂 有守之臣 少壯奮發

忠臣將領

忠臣將領 忠臣將領 忠臣將領

新江陰山下長江之東

十日 亥集

高令王晉昌 形貌甚奇 出處
居生之奇 亦奇 亦奇 亦奇
世之奇 亦奇 亦奇 亦奇
亦奇 亦奇 亦奇 亦奇

漢書中 亦奇 亦奇 亦奇
物極其 亦奇 亦奇 亦奇
後世之 亦奇 亦奇 亦奇
中亦 亦奇 亦奇 亦奇
中亦 亦奇 亦奇 亦奇

少集

松多之山藏
少之山藏

十日

田家

雨極

冬

三日

大雪

五
道
中
高